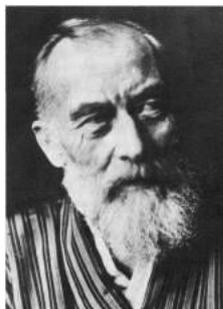


いぶき 4号 平成23年5月号

世界の偉人たち「驚きの日本発見記」

第3回：エルヴィン・フォン・ベルツ(1949-1913年)



「日本人とは驚嘆すべき国民である！今日午後、火災があつてから36時間たつたためか、はや現場では、せいぜい板小屋と称すべき程度のものであるが、千戸以上の家屋が、まるで地から生えたように立ち並んでいる。まだ残骸がいぶり、余じんもさめやらぬうちに日本人は、かれらの控えめの要求なら十分に満足させる新しい住居を魔法のような速さで組み立てるのだ。（中略）彼らの顔には悲しみの跡形もない。まるで何事もなかったかのように、冗談を言ったり笑ったりしている幾

多の人々をみた。かき口説く女、寝床をほしがる子供、はっきりと災難にうちひしがれている男などはどこにも見当たらない」（『ベルツの日記』岩波書店）

明治9年に来日し、日本の近代医学発展に大きな功績を残したベルツは、一万戸以上が廃墟に帰した大火災の後の復興力と平静さに驚嘆しています。